

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

事業所名 グループホーム こばと

日付 平成19年11月28日
特定非営利活動法人

評価機関名 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験9年

評価調査員 ケアセンター介護支援専門員経験5年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

1. 評価結果の概要

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

昨年の外部評価の時に「父はもう近いかも知れないと言われているのですが、ここで最期まで見ていただけなのです。私も出来る限り、こうして付き添っています。迷惑かも知れませんが…」と話す家族と出会った。今年も、その人と今日、ここで会う事が出来た。お父さんは、それから約1ヶ月後皆に見守られる中、安らかに逝かれたが、娘さんはそれからずっとこのホームに来続けている。持参の創作作品のトトロ等、置物や飾り物もこのホームに彩りを添えてくれているし、今日のお土産は「お花付きのお手玉」だ。このホームに口では伝えきれない程の感謝の念を抱いている様子は、同じ経験を持つ私には、痛いほど良く伝わってくる。職員もその心をしっかりと受け止め、その人の訪問を心から喜んでいる。彼女は他の利用者ともよく交流しており、「 さんは入居当時は殆んど何もできない状態だったのに、今はこんなに…」と経過を詳しく説明してくれる程だ。ターミナルケアを通して、利用者本人だけでなく、後々までも家族とこういった関係性が保てるグループホームは「人間誕生の喜び」に匹敵する程の「安らぎ」「満足感」「感謝の心」「良い思い出」を与えてくれる。極限の状態も乗り越えて人と人の心が結びつく一場面を見たような気がする。

彼女が帰った後「 様のあゆみ」のスライドを見せてもらった。子供の頃から戦中・戦後の活躍の写真、入居後の写真等、これもまた感動をいただいた。職員の さんに対する強い思いが溢れていた。人間、最期の時の幸せは、何にも変え難いと思った。

このように、家族ぐるみで利用者一人ひとりと、がっぷり四つに組んだグループホームは、「施設」ではない。「ふところの大きな大家族」だ。グループホーム「こばと」には、この「ふところの大きな大家族」を受け入れる条件や環境が数多く整っている。

更に、このホームの他にあまり見られない先進的な所は「自分達のホームの理念や、こうと思うスタンスをしっかりと持ち、家族にもきちんと伝えている事」と思う。「私達スタッフにおまかせ下さい」という姿勢ではなく、関連グループの協力も得ながら、家族や地域社会と心を一つにして協力し合う関係性が築かれつつあるように感じられる。社会情勢も今後変化していく中、大切な方向性ではないだろうか。

特に改善の余地があると思われる点

確かにこのグループホーム「こばと」は、他の多くのホームと比較して、環境面や関連施設との絆の深さ等、恵まれた状況にあるかも知れない。しかし、現状に満足することなく、より良いケアを目指して、職員は結束して努力している。今後は年数を経て、利用者の心身の状態が重度化するに伴う問題点への工夫や対処の仕方について、今の結束を持続させ「こばと独自のケアの在り方」を確立して欲しい。

2. 評価結果 (詳細)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…: 理念に関する改善項目はないが、実際には毎年とか毎月というように理念を具体化し、日常生活の中に照らし合わせながら目標を定め、実質的な自主評価をして次へのより良いケアにつないでいる。</p> <p>2. 全体的に見て…: 管理者は「この人が今、何を望み、何を必要としているか」常に探ることを怠らないケアを考えているが、と同時に、職員の内面もきっちりと把握しようとしている。「利用者はどんな介護者に、どんな介護をして欲しいと思っているのだろうか?」「安心出来る場の提供の為に何をしたら良いか?」「理想のグループホームとは?」等、全員にレポートを書いて提出してもらっている。「どんな時に嬉しいと感じ、どんな時に生き甲斐を感じるか、の点で職員間は共通認識している」と喜ぶホームである。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…: 改善項目はない。</p> <p>2. 全体的に見て…: 「このホームの一番良い所は?」の質問の答えの一つに、ここの景観の良さ、立地条件の良さが、職員からも利用者からも家族からも挙げられた。「川と山の風景が気に入る、ここで余生を」と決めた人もいる。好きな時に外に出て、川の流れを眺めせせらぎの音を聞く。花の季節は弁当持ちで桜見物・夏の川は花火大会と、季節の楽しみ事も多い。この素晴らしい景観の懐に抱かれるように建っているホームの内側にも、自然の恩恵は入り込んでいる。こういった雰囲気に合わせてように門構えから玄関・リビングルーム、そして居室も、木材を多く使った造りとなっていて、周囲と一体感を感じ着ける。もちろん、職員の穏やかな見守りがあっての賜物ではあるが。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人のできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…: 改善項目として挙げてはいないが、「一人ひとりの力と経験の尊重」は常に意識し、気がついた事があれば実現できるようよく支援している。</p> <p>2. 全体的に見て…: 入所当時は何もする気にならなかった人に、習字が趣味だったので勤めてみたら福祉展覧会で特賞を取ったと言う。習字の練習をしたり、ホームや関連グループ内の施設に掲示する話がよく聞くが、このような所まで支援している所はあまりない。この人は習字を通して生活に張り合いが出来、毎日の練習の他に家事をよく手伝ってくれたり、他の人の面倒も見てくれるゆとりや優しさも出てきたと言う。人は何歳になっても、注目されたり脚光を浴びると生き生きとくるものだと思う。今後も職員の工夫で探検心をしっかり発揮して、一人ひとりの持てる力を見つけ出し、光の当たる場面を作っていくて欲しい。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
記述回答	<p>1. 自主評価について…: 項目には挙げていないが「サービスの質の向上に向けて、その人にとって、私達に何が出来るか常に考える為に関わりをもっと増やしていきたい」と管理者は何度も話していた。「これだけ出来たら良い」という上限が極められない事であり、この姿勢を持ち続ける限り、私達家族の立場にとっては頼もしいホームであり続けると思う。</p> <p>2. 全体的に見て…: 母体であるイケア医院の地盤の強さ、関連施設の力強い応援体制もあるだろうが、ホームと家族や地域社会との結び付きもしっかりした太さになっている。野菜その他の差し入れも多く、常に人の出入りがある。このような風通しの良いホームは閉塞感がなく、明るい感じがする。家族も益々気易くなるし、多くの人の目にあるホームは、もうそれだけでもケアの質は高まっていく事だろう。</p>		